

衆議院法務委員会ニュース

平成 21.11.25 第 173 回国会第 4 号

11月25日(水) 第4回の委員会が開かれました。

- 1 裁判官の報酬等に関する法律等の一部を改正する法律案、検察官の俸給等に関する法律等の一部を改正する法律案及び裁判官の育児休業に関する法律の一部を改正する法律案について
- ・千葉法務大臣から発言を聴取しました。
 - ・千葉法務大臣、加藤法務副大臣、鈴木文部科学副大臣、細川厚生労働副大臣、中村法務大臣政務官及び最高裁判所当局に対し発言がありました。

(発言者及び主な発言内容)

馳 浩君(自民)

- ・裁判官の報酬が一般の国家公務員に準じて定められていること自体が、「裁判官の報酬は在任中減額することができない」とする憲法の趣旨に反するのではないか。
- ・男性裁判官の育児休業の取得を督促し、男性裁判官も育児のつらさや喜び、職場復帰の大変さを経験する方がよいと考えるが、法務大臣の所感を伺いたい。
- ・法曹人口・法曹養成に関する理想と現実が乖離している現状について、法務大臣は、どのように認識し、どのようにしなければならないと考えているのか。

河井克行君(自民)

- ・検察に対する指揮権の行使について、法務大臣はどのように考えているのか。就任記者会見において、指揮権の行使も選択肢の1つと考えているとも受け取れる発言をしているが、歴代の法務大臣のように、明確に否定すべきでないか。
- ・法務省政策会議は、何をすることで、誰に開催案内を出しているのか。与党議員の意見交換・意見集約が主たる目的であれば、その議事要旨を法務省ホームページに掲載することは、公正・中立な行政運営という観点から適切ではないのではないか。
- ・受付窓口を一本化するとする民主党の陳情の受付方法は、政治活動の自由及び表現の自由を保障する憲法第 21 条に違反するのではないか。

稲田朋美君(自民)

- ・法務副大臣の関係団体が、東京都内の会社役員から、2年間で7,400万円の寄附を受けているが、その経緯を伺いたい。
- ・平成19年に法務副大臣の関係団体が同一人から計1,050万円の寄附を受け、後に150万円を返還しているが、副

大臣が政治資金規正法上の上限を超える寄附を受けたことを知った経緯及び返還した経緯を伺いたい。

- ・法務副大臣が同一人物から多額の寄附を受けた行為は、癒着を防止するために同一の者からの寄附を制限している政治資金規正法の趣旨を逸脱していると考えますが、所見を伺いたい。

大口善徳君(公明)

- ・司法制度改革審議会意見書等を踏まえて、裁判官の報酬の進級制の在り方について、最高裁判所では、どのような検討を行ってきたか。
- ・育児休業の取得を促進するため、裁判所における育児休業の取得状況を検証し、その検証結果について裁判官は別枠で公表する必要があると考えるが、最高裁判所の所見を伺いたい。
- ・政務三役が査定の上、概算要求をしている以上、行政刷新会議ワーキンググループの「事業仕分け」においては、政務三役が説明者側に着席して、自ら説明をすべきだと考えるが、法務大臣の認識を伺いたい。